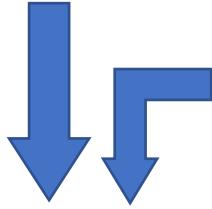


令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

令和6年度 教科等研研究会全体テーマ

児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・楽しい」授業づくり



令和6年度 県中体研研究主題

運動や健康の魅力を味わう保健体育科の授業づくり  
～意図的・系統的な授業づくりを通して～

令和6年度 上益城郡教科等研究会保健体育部会テーマ

「運動や健康の魅力を味わう保健体育科の授業づくり」

～生徒が「楽しい」を実感する活動の工夫～

2 研究経過

第1回	第2回	第3回	第4回
期 日 6月7日(金)	期 日 8月23日(金)	期 日 11月1日(金)	期 日 1月23日(木)
場 所 益城中学校	場 所 矢部中学校	場 所 御船中学校	場 所 益城中学校
内 容 活動計画等	内 容 各学校取組発表 構想案検討	内 容 授業研究会 授業者 一門 翔 2年ハンドボール	内 容 授業研究会等 授業者 上林 匠 2年サッカー

※第3回は子供の体力向上推進委員会との授業を兼ねる

3 研究の概要

(1) 研究の内容

①主題設定

豊かなスポーツライフの基盤を育成するために、生徒が「楽しい」と思える授業の在り方が重要である。郡教科等研究会全体テーマと県中体研研究主題と関連をもたせながら、「わかる・できる」「楽しい」を感じるために、生徒が魅力を感じることが出来る授業づくりを本研究のテーマとした。授業の中で「できた」「わかった」「友達と交流しながら活動した」という経験が大事になる。そこで「生徒が「楽しい」を実感する活動の工夫」というサブテーマを掲げ、本研究に取り組むことにした。

②研究組織

【 授業研究部会 】	【 資料部会 】	【 課題検討部会 】
武田 (益城)	仲川 (矢部)	古閑 (甲佐)
松本 (嘉島) 上林 (益城)	松本 (清和) 瀬戸 (甲佐)	藤野 (木山) 太田黒 (益城)
安部 (嘉島) 一門 (御船)	中尾 (益城) 廣津 (木山)	岩田 (御船) 倉岡 (御船)
福田 (御船)		

③研究の取組

- ①それぞれの授業する中で、「楽しい」と思える工夫を取り入れた授業をする。
- ②单元ごとまたは年度の始めと終わりにアンケートを実施する。
- ③全員で取組事例集を作成し、上益城としての「楽しい」を追求した事例集を作成する。
- ④年度末に資料や評価を共有する。
- ⑤研究授業を行い、実践を基に、いろいろな工夫を検討する。

(2) 研究の実際 サッカー

①学習構想案

4 本時の学習

(1) 目標

ゴール方向に守備者がいない位置でボールを受けてシュートができる。【技能】

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 課題をつかむ。 (1) 健康観察 (2) 前時の学習の確認と本時の学習の流れの確認</p> <p>【めあて】シュートが打ちやすい場所に動いてシュートができる。</p> <p>(3) スキルウォームアップ</p>	<p>○健康状態を十分に把握する。 ○ポイントの確認を視覚的に理解させる。</p> <p>○体力の向上とサッカーの基本技能の向上を目指す。</p>
展開	5分	<p>【学習課題】得点の可能性をあげるにはどのような動きが必要だろう</p> <p>2 課題の解決に向けて活動する。 (1) 課題別選択練習 ①走り込みシュート ②ドリブルシュート ③二人組ランニングパス</p>	<p>○個人の課題に応じて練習を選べるようにする。 ○苦手な生徒を中心に声かけを行う。 ○全員の活動量が確保できるように十分な数のコースを作成する。</p> <p>○ゲームのルール説明を行う。 ○ゲームがないチームは得点係を行う。</p> <p>【具体の評価基準】【技①】 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。(評価方法：観察)</p> <p>【B評価に到達していない生徒への手立て】 ○どこに動くか得点につながりやすいかマグネットを使って説明を行う。 ○理解している生徒が積極的に声かけをするように指示をする。</p>
	25分	<p>(2) 簡易ゲーム ・4ゴールゲーム ・4分3セット ・セット間は90秒 (移動とミーティングを行う)</p> <p>【期待される学びの姿】 チームメイトのオフザボールの動きについて意見を出し合い、それを表現しようとする姿</p> <p>◇敵が近くて、すぐにボールを取られる ◇敵がいない場所に動くといいよね ◇声を出してパスをもらおう</p>	
終末	10分	<p>3 本時の振り返りをする。 (1) 学習の振り返りを行う</p> <p>(2) 学習のまとめをする</p> <p>【まとめ】 空いた空間に走り込んでパスを受けるとシュートが打ちやすい。</p> <p>(3) あいさつをする</p>	<p>○オフザボールの動きを意識させて振り返りをさせる。 ○考えを学級全体で共有するために発表を行う。</p> <p>○発表者の言葉からまとめを作成する。</p>

②各学校の取組「空手道①」

<p>御船中学校 岩田 聡</p>	<p>単元名</p> <h2 style="margin: 0;">武道：空手道</h2>	<p>( ) 体力向上 (○) 楽しみ</p>
<p><b>1 単元について</b></p> <p>空手道は、東京五輪で開催都市枠として追加競技になったが、パリ五輪では開催されず。それ以前の大会で開催されたことはなく、将来的な開催も予定されていない。なお、東京五輪では、「形」と「組手」に分けられ、性別と体重別の計8種目が開催された。</p> <p>中学校学習指導要領保健体育編「3 内容の取扱い」では、「カ『F武道』については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、柔剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化についてよい層触れることができるようにすること。また、(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、柔剣道などについても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全を十分確保すること。」とある。</p> <p><b>2 単元計画</b></p> <p>(1) 本校での取組(実態)</p> <p>本校では、昨年からは1年生のみ武道を行っている。空手道を行っているのは私だけで、他の教師は剣道を行っている。</p> <p>(2) 空手道の特性</p> <p>空手道は、体育服のままでも行うことができるため、道着や防具の着用の指導の時間が不要である。また、「形(団体形)」や「組手(団体組手)」に取り組むため、ケガの心配がないことも大きな特徴である。礼法や基本動作など、我が国固有の文化についても指導ができるため、武道の目標を十分に達成できるよい教材である。</p> <p>(3) 単元計画(裏面参照)</p> <p><b>3 活動内容</b></p> <p>(1) 学習形態</p> <p>1年生は男女共習で「基本形(団体形)」に取り組み、男女混合のグループを作り、単元の最後に競技会(発表会)を行うようにした。</p> <p>令和4年度までは2年生でも武道を行っており、男子が空手道「約束組手(団体組手)」に取り組んだ。</p> <p>(2) アップ</p> <p>準備運動は年間通してルーティン化して取り組んでおり、その後に、基本動作や基本となる技の練習を行い、我が国固有の文化に触れ、身に付けられるようにした。</p>		
<p>(3) メイン活動</p> <p>1年生では、単元の前半で基本形の習得を目指し、後半に、競技会(発表会)に向けて、審判法や入退場についても学習した。</p> <p><b>4 成果と課題</b></p> <p>平成24年度～26年度は佐敷中学校で勤務していた。芦北では、町で武道は「空手道」に取り組んでおり、体育教師は全空連の研修会に参加して、基本的な技や指導法について学ぶことができていた。</p> <p>平成27年度～31年度は木山中学校で、令和2年度～4年度は御船中学校で、1年生と2年生で空手道に取り組んできた。</p> <p>前述したとおり、ケガや道着着用の指導の心配がなく、礼法や基本動作の指導も十分にできる種目である。</p> <p>競技会(発表会)を実施することで、生徒も意欲をもって練習に取り組み、隊形や移動の仕方、よりよい団体形をするためのポイントなどをICTを活用したり、意見交換をしたりしながら学習に取り組むことができていた。</p>		
		
<p>↑ 形の練習</p> <p>タブレットを使って演技の確認 →</p>  <p>↑ 形の練習</p> <p>↓ 競技会の様子</p>		
		
		
<p>↑ 2年生「約束組手」の練習(審判あり)</p>		

②各学校の取組「空手道②」





②各学校の取組「バスケットボール」

嘉島中学校  
安部拓哉

単元名

球技：バスケットボール

( ) 体力向上  
(○) 楽しみ

1 生徒の実態

3年3組は、男子17名女子17名合計34名の学級である。運動部活動の加入率は44%であり、休み時間も積極的に運動に親しむ様子がある。以下の実態調査アンケートからも69%の生徒が「体育の授業を楽しい」と回答しており、肯定的に感じていることが分かる。しかし、「日常的に運動に関わっている」という項目では、46%が否定的な回答をしている。以上のことから、体育の授業は楽しいと感じながらも、実生活の中で運動に親しむ日常化までは繋がっていないことが課題であるといえる。

○実態調査アンケート（回答者：28名）

①その日のあそびを種類ごで ②楽しんでいない	10	15	3	0
③課題を解決したり上手に なったりするための活動がある	12	12	3	0
④授業では、常連先生で自動的に する練習がある	12	13	3	0
⑤上手になる練習のポイント などを指導してくれる	11	15	2	0
⑥授業の終わりには、 練習を振り返り練習がある	9	15	4	0
⑦授業の授業は楽しいと思う	9	10	4	0
⑧その日は得意がある (好きな運動はなんでも含めて)	2	8	10	9
⑨授業では、「やる気」が と見える練習がある	4	19	5	0
⑩日常的に運動に関わっている	8	7	9	4

【実態調査アンケート（授業前）】

2 単元計画

目指す生徒の姿

仲間と協力して学習する中で、バスケットボールに関する理解を深め、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開して楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツに多様な関わり方をしようとする生徒

単元を通した学習課題

ボール操作や仲間と連携した動きを身につけ、チームワークを高めながらバスケットボールを楽しもう。

3 活動の実際

(1) 1時：オリエンテーション

体育委員会主催の球技大会を単元のゴールの活動と設定し、生徒と共有することで関心・意欲を高める。オリエンテーション時に、試しのゲームを行い、今後身につける技能や必要な動きについて課題を把握できるようにする。



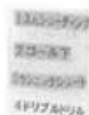
【単元計画表】

生徒の感想

○ルールを大体理解することが出来た。試合中焦ってドリブルができていないから練習をしていきたい。  
○まずは、簡単なシュートを決める練習をする。次にチームプレーをするべきだと思った。

(2) 2～4時：基礎技能を高める活動

パス・ドリブル・シュートなどの基礎技能のポイントと練習方法を教師が提示し、課題を探しながら取り組む。



生徒の感想

○パスの仕方にも4種類くらいあるんだなと思いました。次はチームのみんなとパスが回せるようにしてみたいです。  
○僕たちのチームは、パスとドリブルはある程度できていたけど、シュートが決まれないから練習を頑張りたい。

【課題を見つける】



【解決方法を考える】



【練習を工夫する】

3・4時には、チームの課題に応じて練習方法を選択し、解決の方法を工夫しながら練習に取り組む。

(3) 5・6時：空間に走り込む動きを身につける活動

ワークシートを活用し、空間を使って攻撃をする方法や仲間と連携して攻撃する動きについて考える。

(4) 7・8時：試合 9・10時：球技大会

クラスマッチ形式で球技大会を行い、これまでに学習したことを発揮する場を設定する。



【委員会が運営するクラスマッチ】

生徒の感想

○今日は球技大会があって、今まで練習したことを生かしていいチームプレイができたので良かったです。  
○最初の授業と比べて、積極的に動けたと思う。どこにいたら、見方がパスしやすいか考えることが大事だと分かった。  
○ゴールに近づくためにロングパスを多く使ったけど、途中で取られたりしたから短く正確なパスをしようと思った。

4 成果

○昼休みや放課後にバスケットボールの練習に取り組む生徒が増え、日常化につながった。

○自己やチームの課題を見つけ、解決の仕方を自分なりに思考する振り返りが多くみられるようになった。

○実態アンケートの結果で肯定的な回答が増えた。

①その日のあそびを種類ごで ②楽しんでいない	15	10	3	0
③課題を解決したり上手に なったりするための活動がある	23	9	0	0
④授業では、常連先生で自動的に する練習がある	29	2	0	0
⑤上手になる練習のポイント などを指導してくれる	18	10	0	0
⑥授業の終わりには、 練習を振り返り練習がある	14	14	3	0
⑦授業の授業は楽しいと思う	19	8	2	0
⑧その日は得意がある (好きな運動はなんでも含めて)	9	8	9	8
⑨授業では、「やる気」が と見える練習がある	12	12	3	0
⑩日常的に運動に関わっている	10	10	4	4

【実態調査アンケート（授業後）】

### (3) 成果と課題

#### ①各部会の成果と課題

##### ア 授業研究部会

○2本の研究授業と学習構想案検討会が実施できた。

▼学習構想案検討を早い時期に行い、本時の展開だけでなく、単元計画づくりから行えるとよかった。出張や旅費の関係もあるが、1本の研究授業に2回の検討会が必要である。

▼授業の軸になる取組をしっかりと授業者と部会で検討し、事前に周知ができると、より研究会に深まりが出るのではないか。

##### イ 資料部会

○各授業の取組事例集を作成することができた。

▼各授業集・学習カード集を作成できないだろうか。

##### ウ 課題調査部会

○各学校の取組で、アンケートによる検証を行うことができた。

▼体力テストの分析を行い、授業での取組の参考になるようにしたい。

#### ②各学校の取組事例集の成果と課題

○いろいろな授業の単元計画や場の設定の工夫を知ることができた。

○どのような授業にしようかと考えながら計画を組むことができた。

▼単元が重なったので、できるだけ配分していろいろなものを知りたい。

▼水泳など、指導が難しいと感じる単元の資料がなかった。

### 4 まとめ

郡教科等研究会全体テーマや県中学校体育研究会研究主題を参考に、上益城の生徒の実態に応じながら取り組んできた。「できる」「楽しい」にはいろいろなアプローチがある。指導する教員の経験の違いや考え方などにより、その方法や工夫は多岐にわたる。今年度は、それぞれが持っている授業の引き出しを出し合い、学び合うことを中心として取り組んできた。また、その実践として研究授業も2本行い、様々な学びの場になった。この取組を検証、発展させていく取組が今後必要になると考えている。生徒が楽しくて、授業が待ち遠しい、思いっきり体を動かしたいと思うような授業をこれからも突き詰めていきたい。